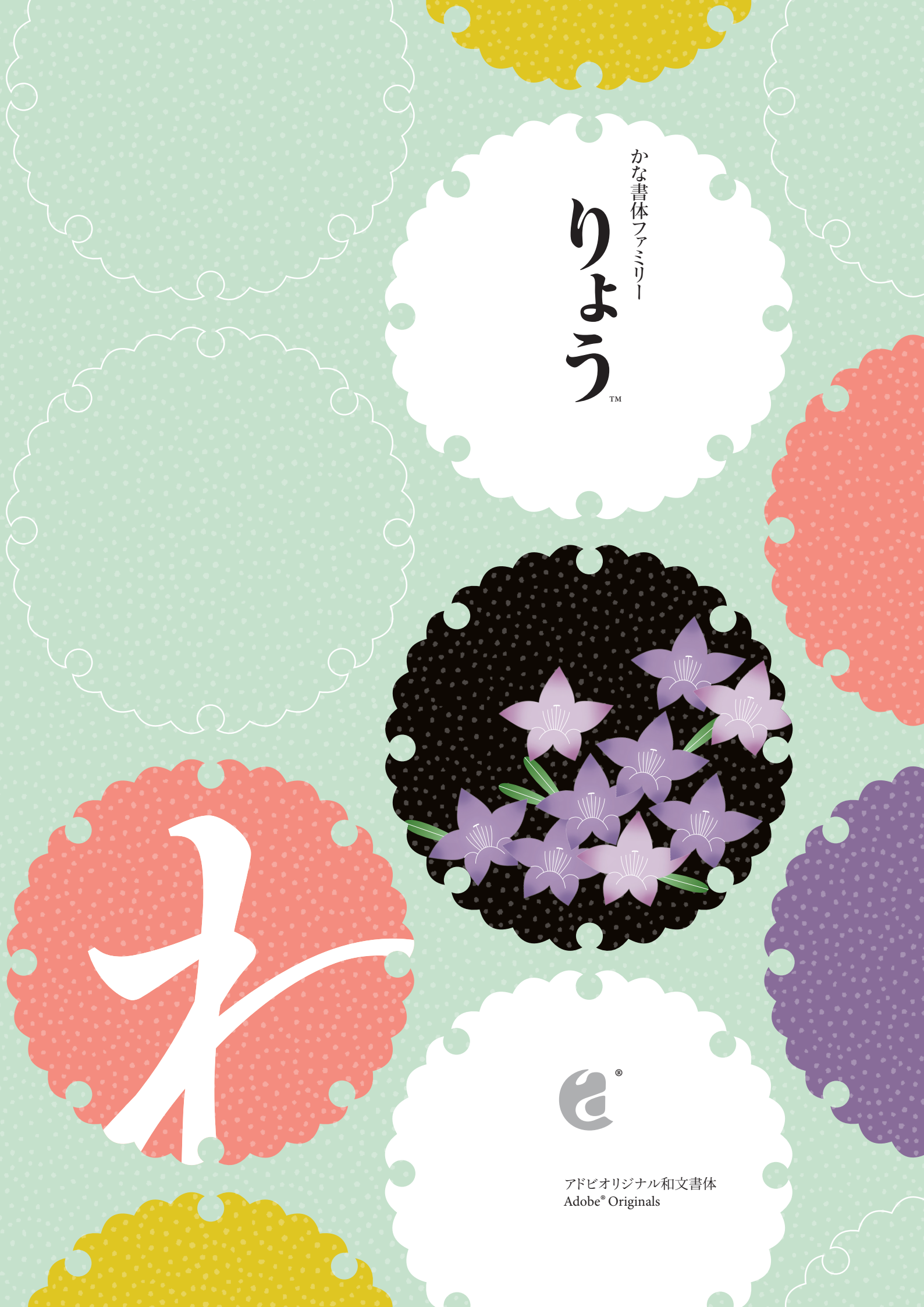


かな書体ファミリー

りよう™



アドビオリジナル和文書体
Adobe® Originals



小振りで、あっさりとしたりょうTextは本文用として

おもに大正から昭和初期にかけて活躍した日本画家の富田溪仙は近代日本画のなかにあって独自の画風を打ち建てた。大胆な省略と誇張を含む南画的な画面構成を特異としたが、奔放な表現を抑制し、画面全体を制御する技術も備えていた。それによって、溪仙は、俳諧的な趣に深みを与えることに成功したのである。

「祇園夜桜」という作品で、溪仙は夜桜の情景を見事に描いている。桜と山とがただ描かれているのではない。あたかも画家自身のところが夜桜と背景の山に包み込まれているかのようである。画家の感慨そのものが伝わってくる。だから、その絵の夜桜の情景に感じ入った後に余韻が深く残る。

溪仙の絵にあつては、夜桜の華やかさ、その一刹那が、ただ鮮やかに意識されるだけでは終わらない。一拍おいてからも、「夜桜とはそのようなものであったか」と思い出すことができる。人の記憶にずっと以前からある情景としての、「夜桜」がはつきりと描かれているのだ。

溪仙はしばしば異才と呼ばれるが、横山大観は溪仙の才能を意識していた。溪仙が死んだという知らせに大観は号泣したといわれる。

りょうText R + 小塚明朝 R 12/22 pt
31 字詰め 字送りベタ

おもに大正から昭和初期にかけて活躍した日本画家の富田溪仙は近代日本画のなかにあって独自の画風を打ち建てた。大胆な省略と誇張を含む南画的な画面構成を特異としたが、奔放な表現を抑制し、画面全体を制御する技術も備えていた。それによって、溪仙は、俳諧的な趣に深みを与えることに成功したのである。

「祇園夜桜」という作品で、溪仙は夜桜の情景を見事に描いている。桜と山とがただ描かれているのではない。あたかも画家自身のところが夜桜と背景の山に包み込まれているかのようである。画家の感慨そのものが伝わってくる。だから、その絵の夜桜の情景に感じ入った後に余韻が深く残る。

溪仙の絵にあつては、夜桜の華やかさ、その一刹那が、ただ鮮やかに意識されるだけでは終わらない。一拍おいてからも、「夜桜とはそのようなものであったか」と思い出すことができる。人の記憶にずっと以前からある情景としての、「夜桜」がはつきりと描かれているのだ。

溪仙はしばしば異才と呼ばれるが、横山大観

りょうText L + 小塚明朝 L 9/16.5 pt
21 字詰め 字送りベタ

りょうDisplay B + 小塚明朝 B 24 pt
プロポーショナル+手動調整
ローマンは Minion Pro Bold 18 pt

おもに大正から昭和初期にかけて活躍した日本画家の富田溪仙は近代日本画のなかにあって独自の画風を打ち建てた。大胆な省略と誇張を含む南画的な画面構成を特異としたが、奔放な表現を抑制し、画面全体を制御する技術も備えていた。それによって、溪仙は、俳諧的な趣に深みを与えることに成功したのであろう。

「祇園夜桜」という作品で、溪仙は夜桜の情景を見事に描いている。桜と山とがただ描かれているのではない。あたかも画家自身のところが夜桜と背景の山に包み込まれているかのようなのである。画家の感慨そのものが伝わってくる。だから、その絵の夜桜の情景に感じ入った後に余韻が深く残る。

溪仙の絵にあつては、夜桜の華やかさ、その一刹那が、ただ鮮やかに意識されるだけでは終わらない。一拍おいてからも、「夜桜とはそのようなものであったか」と思い出すことができる。人の記憶にずっと以前からある情景としての、共感の対象としての「夜桜」がはつきりと描かれているのだ。

溪仙はしばしば異才と呼ばれるが、横山大観は溪仙の才能を意識していた。溪仙が死んだという知らせに大観は号泣したといわれる。

りよう Display M +小塚明朝 M 12/22 pt
31 字詰め 字送りベタ

りよう Display はキャッチコピーから見出しまで、 幅広い用途でご利用いただけます。

りよう Display H +小塚明朝 H 24/36 pt
プロポーショナル+手動調整
ローマンは Minion Pro Bold 18 pt

かな書体ファミリー りよう_{mn}は既存の明朝体と組み合わせるための新しいかな書体です。

りよう は新進気鋭の西塚涼子によるデザイン。力強くスピード感のある若々しい筆致は、従来にない独自のものです。

デザインにあたって、彼女は歴史上のさまざまな仮名や草書の筆法に学びながら、試作をくりかえしました。

伝統的なかなの筆法にもとづきながら、新しい提案をふくむ書体にしたいという意図があったからです。

りよう Text EL +小塚明朝 EL 7/13 pt
プロポーショナル+手動調整

かな書体りょうのファミリー構成

りょうはTextとDisplayという異なる用途を想定したふたつのファミリーで構成されるかな書体です。Textは本文や比較的小さい文字サイズでの利用に適し、Displayはポスターや広告の見出しなど大きな文字サイズでの利用に適しています。

TextのファミリーにはExtra-Light, Light, Regular, Mediumの4ウェイト、DisplayのファミリーにはMedium, Semi-Bold, Bold, Extra-Bold, Heavyの5ウェイトのフォントを用意しました。お手持ちの他の和文書体と容易に組み合わせ使用することができます。

りょうはひらがな、カタカナおよび一部の句読点類だけを含むOpenType®フォントです。他の書体と組み合わせるには、Adobe InDesign®日本語版の合成フォント機能の併用を推奨いたします。

かな Text L (Extra-Light)

かなをえらぶことでタイプフェイスが変わる

かな Text L (Light)

かなをえらぶことでタイプフェイスが変わる

かな Text R (Regular)

かなをえらぶことでタイプフェイスが変わる

かな Text M (Medium)

かなをえらぶことでタイプフェイスが変わる

かな Display M (Medium)

かなをえらぶことでタイプフェイスが変わる

かな Display SB (Semi-Bold)

かなをえらぶことでタイプフェイスが変わる

かな Display B (Bold)

かなをえらぶことでタイプフェイスが変わる

かな Display BB (Extra-Bold)

かなをえらぶことでタイプフェイスが変わる

かな Display H (Heavy)

かなをえらぶことでタイプフェイスが変わる



アドビシステムズ 株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎 1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー
www.adobe.co.jp

Adobe Systems Incorporated
345 Park Avenue
San Jose, California 95110-2704 USA
www.adobe.com

Adobe, Adobe ロゴ, Adobe Originals ロゴ, 小塚明朝, りょう, Minion, Myriad および InDesign は Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の米国および/またはその他の国における登録商標または商標です。OpenType は Microsoft Corporation の米国および/またはその他の国における登録商標です。

© 2003 Adobe Systems Incorporated and its licensors. All rights reserved.

Adobe, the Adobe logo, the Adobe Originals logo, Kozuka Mincho, Ryo, Minion, Myriad and InDesign are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries. OpenType is a registered trademark of Microsoft Corporation in the U.S. and/or other countries.